



ゴナックスの治療をお受けになる方へ

★治療スケジュール

症状や経過に合わせて治療スケジュールが変わることがあります。

お薬の名前	初回	2回目	3回目	……
ゴナックス 120mg ×2本	 	/		
	腹部に2カ所 皮下注射			
ゴナックス 80mg ×1本	/			4週間ごと に

★前立腺がんの内分泌療法

〈男性ホルモンの依存を断ち、がんの進行を抑えます〉

前立腺がんの発生と進行には、アンドロゲンという男性ホルモンの作用が深くかかわっています。このことから、前立腺がんはアンドロゲン依存性のがんであるといわれています。

前立腺の中の細胞は、正常なものも、がん化したものもこのアンドロゲンにより増殖します。逆に、血液中のアンドロゲンを抑える（依存性を断つ）ことができれば、がん細胞の増殖は止まり、がん細胞は死滅します。内分泌療法（ホルモン療法）は、このような発想に基づいてアンドロゲンの産生や作用を抑え、前立腺がんの進行を抑える治療法です。

★投与方法とスケジュール

ゴナックスは腹部の皮下に注射します。ゴナックスは皮下注射後、体液と触れることで、体の中でゲル状の丸い塊を形成します。そこから徐々に薬の成分が放出され、効果を発揮します。

ゴナックスは、1回の注射で4週間（28日）効果が持続します。それを超える間隔で注射すると薬の効き目が弱くなりますので、必ず決められたスケジュール（4週間）にしたがって治療を続けてください。



〈主な副作用〉

発汗・ほてり

男性ホルモンの低下に伴い、気温や体温に関係なく、からだや顔がほてったり、急に顔が熱くなる、汗をかくなど、更年期症状に似た症状が生じることがあります。
⇒木綿などの吸湿性の良い下着を用いる、辛いものやアルコールを避ける、市販の制汗剤を使う、など日常生活の工夫を上手に取り入れましょう。

貧血

副作用による貧血の場合、めまい、ふらつきなどの症状としてあらわれることがあります。場合によっては、薬で治療をしたり、輸血をすることもあります。

肝機能障害

肝臓の働きが低下することがあります。そのため、定期的に血液検査を行い、肝臓の働きを確認します。
⇒お酒やサプリメント、健康食品でも肝臓の働きが低下することもあります。服用中の方は、主治医に申し出て下さい。

注射部位反応

注射部位に疼痛、紅斑、硬結（かたまり）を生じることがあります。
⇒注射部位をこすったり触ったりせず、もしそのような異常を感じた場合には、主治医や看護師に相談して下さい。

脂質異常

脂質代謝異常により、高コレステロール血症や高トリグリセリド血症などがおこることがあります。そのため、定期的に血液検査を行い、これらの値を確認します。

骨塩量の低下

男性ホルモンの分泌の抑制により骨塩量が低下して骨がもろくなることがあります。
⇒カルシウムやビタミンDを意識して摂取してください。

★すぐに連絡をいただきたい副作用



- ★「階段を登ったり、少し無理をしたりすると息切れがする・息苦しくなる」、「空咳が出る」、「発熱する」このような症状が急に現れる、または以前から症状があった場合は、症状が急に悪くなる。（間質性肺炎）
- ★「胸の痛み」、「息苦しくなる」、「片方の足の急激な痛みや腫れ」（血栓・塞栓症）

※ここに記載した副作用以外にも、体の異常を感じたら病院にご連絡ください。